

ホタテガイ採苗速報

早めの稚貝採取で体力のある稚貝を育成しましょう

1 各地採苗器への付着状況

7月9日～10日に行った第2回臨時付着稚貝調査の結果は、図1～3および表1のとおりです。

ホタテガイ稚貝の平均殻長(間引き後)は、西湾で4.01mm、東湾では3.88mmでした。

1分5厘のフルイで残る稚貝の割合は、西湾で29.0%、東湾では26.6%、2分のフルイで残る割合は、西湾で5.5%、東湾では4.1%でした。

2 海況

各ブイの7月6日～12日の日平均水温は、表2のとおりです。平年と比較すると、15m層の7月第2半旬平均水温は、平館ブイと東湾ブイで平年並み、青森ブイでやや高めとなっています。

3 今後の見込み

稚貝の大きさから判断して、**西湾、東湾ともに、1分5厘で稚貝採取する場合は来週、2分で採取する場合は再来週からできる見込み**です。ただし、付着数や間引きの時期、今後の水温の動向によって成長に差があるので、稚貝の育成状況を見ながら作業を進めてください。

また、稚貝採取が遅くなるほど**ムラサキガイが成長し、足糸を出してホタテガイ稚貝とくっつきやすくなり、作業効率が悪くなる**ので注意しましょう。

今年の夏は水温が高くなる可能性があることや、高水温時には稚貝がエネルギー不足でへい死することから、**早めの稚貝採取により体力のある稚貝を育成する**ようにしましょう。

4 稚貝採取時の注意事項

(1) 稚貝を大切に扱きましょう。

- 作業は**早朝の涼しい時間帯に行い**、タライや水槽の水温が上がらないように、シート等で**直射日光を防ぎましょう**。
- タライや水槽の水は出来るだけ深い水深帯から汲み上げ、かけ流しにしましょう。かけ流しにできない人は、タライの海水を頻繁に交換してください。かけ流しまたは海水の交換がないと**水温上昇および酸欠で稚貝が死んだり、成長不良になることがあります**。
- 稚貝は、海水温が26℃を超えるとへい死の危険性が高くなります。海水温を計ったり、海況自動観測ブイならびに水温自動観測ブイの水温(下記URL、QRコード)を参考にしながら**26℃を超す日は稚貝採取をしないでください**。
- 稚貝は乾燥にも弱い**ので、手早く作業を行きましょう。

(2) 適正保有数、適正収容数を守りましょう。

- 稚貝採取では決められた保有数を守りましょう**。
- パールネット1段当たりの収容数を適正にしましょう**。
- 分散が遅れる可能性があるパールネットには、少なめに稚貝を入れましょう**。

(3) 採取後の管理に気をつけましょう。

- 採取後の稚貝が足糸でネットに付着しているかどうか見ながら作業を進めましょう。
- 水深が浅いほど水温は高く、潮も速いので、**採取後は施設を中層以深に沈めましょう**。また、立ちきり(土俵)やオモリをつけて、**施設やネットを安定させましょう**。
- 採取後も一部の採苗器を残しておきましょう。

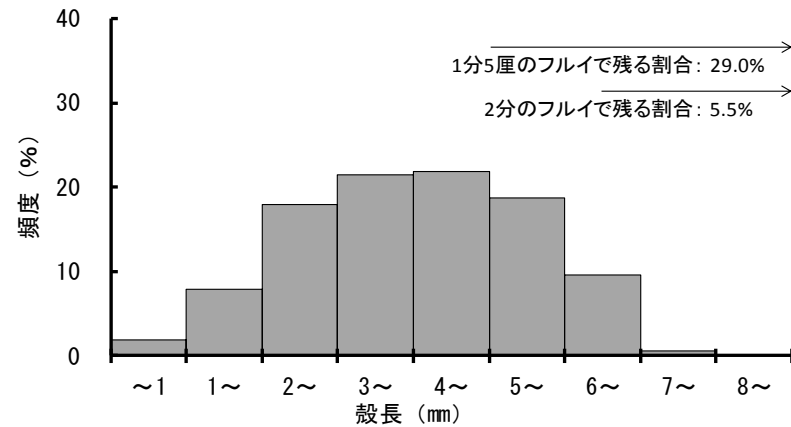


図1 ホタテガイの殻長組成 (西湾平均)

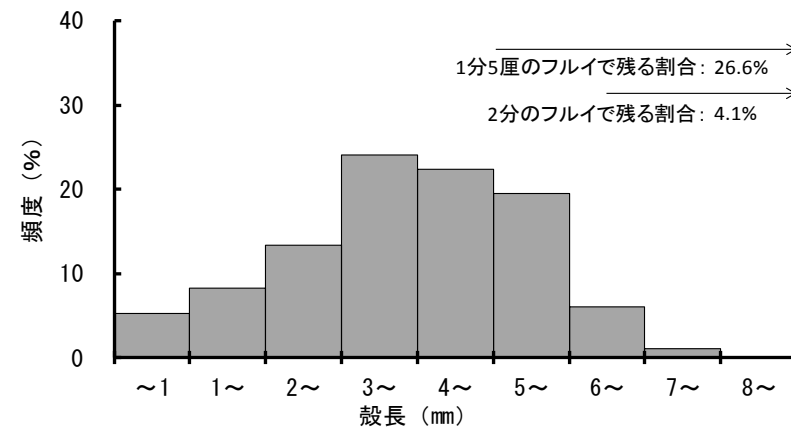


図2 ホタテガイの殻長組成 (東湾平均)

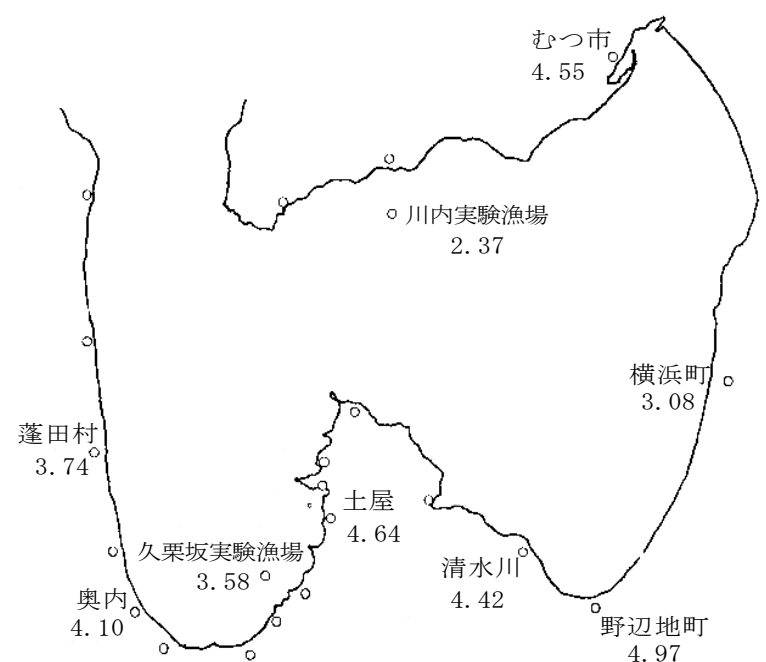


図3 調査地点毎の平均殻長 [単位: mm]

